

4月6日から7日にかけての暴風と高波

気象庁予報課気象防災推進室

災害対策連絡調整会議資料

平成25年4月5日

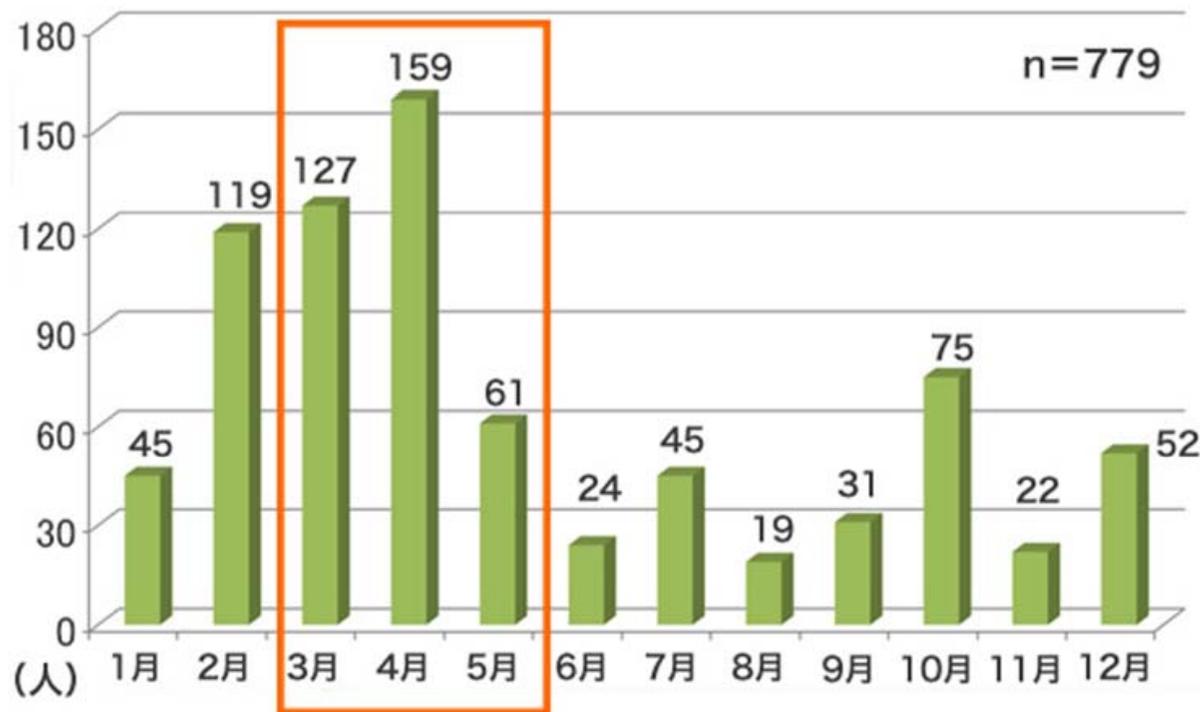
「春の嵐」「メイストーム」について

平成25年4月5日
気象庁

春は、低気圧が急速に発達して、「春の嵐」「メイストーム」と呼ばれる台風並みの暴風や猛吹雪が発生しやすい季節です。

このような低気圧が予想されるときには、外出を控えて暴風に備えるなど、台風と同じように警戒が必要です。

グラフ: 東京都の強風・突風による負傷者数
平成18年1月から平成22年12月 5年間の合計



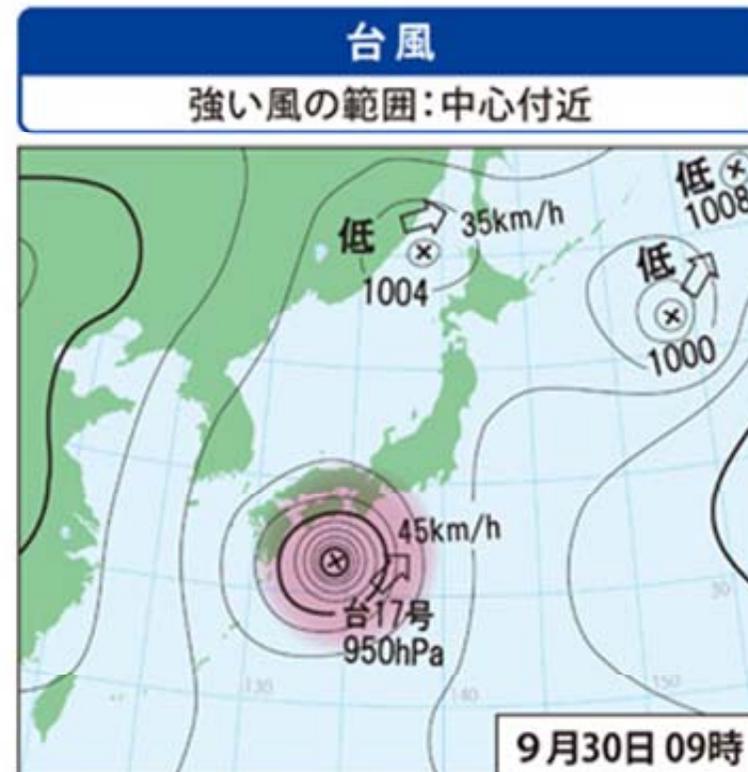
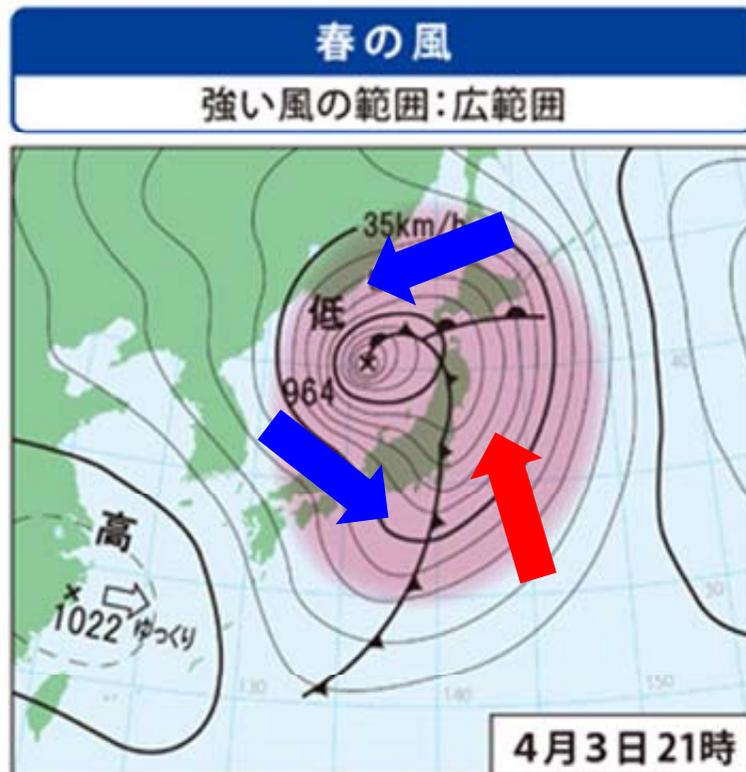
「春の嵐」「メイストーム」について

平成25年4月5日
気象庁

このような激しい現象の発生要因は、北から入り込んでくる冷たい空気と南から流れ込む暖かい空気が日本付近でぶつかりあって、温帯低気圧が急速に発達するためです。

台風の場合は、台風の中心が近づくと急激に風が強まりますが、「春の嵐」をもたらす温帯低気圧は、低気圧の中心から離れたところでも風が強く吹くため、被害の範囲が広がりやすいという特徴があります。

「春の嵐」と「台風」風の吹き方比較



「春の嵐」発生事例(平成24年4月3日～5日)

低気圧が急速に発達しながら日本海へ進み、4月3日21時には中心気圧が964ヘクトパスカルと台風並みに発達。

この低気圧により山形県酒田市飛島では最大瞬間風速(※)51.1m/s、和歌山県友ヶ島で最大瞬間風速41.9m/sを観測するなど、各地で記録的な暴風となった。

歩行中の転倒、屋根からの転落、倒木の直撃などにより多数の死傷者が出たほか、トラックなどの横転事故、住宅の破損や停電、そして交通機関のマヒなど様々な被害が発生。



(毎日新聞)強風にあおられ横転した2台のトラック＝富山市の新婦大橋で2012年4月3日午後1時11分、青山郁子撮影



(毎日新聞)強風で倒れた木の直撃を受けた乗用車。乗っていた女性2人がけがをした(一部画像を処理しています)＝北九州市八幡東区宮の町1で2012年4月3日午後5時5分、高橋克哉撮影

風の強さと吹き方

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその 時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	~50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平 になり、高速運転中では横風 に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	~70km		風に向かって歩けなくなり、転倒 する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	~90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていないと立っ てられない。 飛来物によって負傷するおそれ がある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始 める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常 の速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未満	~110km					固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落す る。	40
猛烈な風	30以上 35未満	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中のトラックが横転す る。	固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落す る。	50
	35以上 40未満	~140km					外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	
	40以上	140km~					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	60

気象情報の発表タイミング



東京の発表基準 強風注意報＝最大風速13m/s 暴風警報＝最大風速25m/s

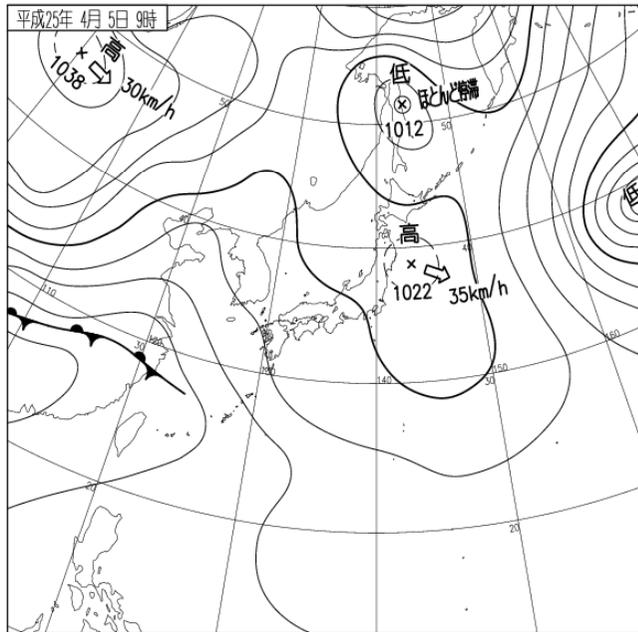


いままで内容は、政府広報オンラインの記事を元に作成しました。
<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201304/2.html>

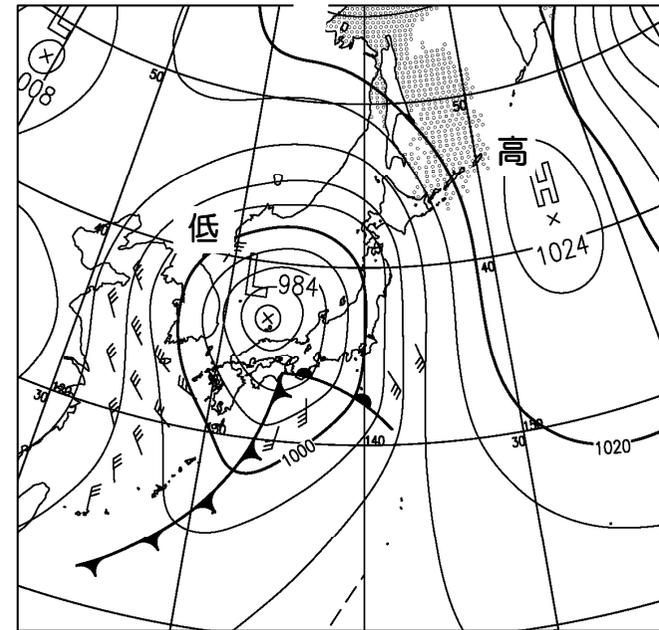
4月6日から7日にかけての暴風と高波

平成25年4月5日
気象庁

- ・ 明日6日から7日にかけて急速に発達する低気圧の影響で、西日本から北日本の広い範囲で非常に強い風が吹き、海は大しけとなる見込み。暴風や高波に警戒。
- ・ 西日本から北日本の太平洋側では、非常に激しい雨を伴い大雨のおそれ。低地の浸水や洪水、土砂災害に警戒。
- ・ 積雪の多い地方では雪解けが進むので、低地の浸水や河川の増水、土砂災害に警戒し、なだれにも注意。



4月5日9時の天気図



4月6日21時の予想天気図

 海水域



風速・風向

※矢羽の向きで風向を、羽の種類と本数で風速を表す

太い矢羽:約25m/s 長い矢羽:約5m/s 短い矢羽:約2.5m/s

【警戒事項】

＜暴風・高波＞

- ・ 6日は西日本から東日本にかけて南寄りの風が次第に強まり、7日には北日本でも南寄りの風が強まる見込み。
- ・ 海上と沿岸部を中心に暴風となる所があるほか、広い範囲で非常に強い風が吹くおそれ。
- ・ 海上は、西日本は6日から大しけとなり、東日本と北日本でも7日以降大しけとなるおそれ。

6日にかけて予想される最大風速(最大瞬間風速)は

西日本 25メートル(35メートル)

東日本 20メートル(30メートル)

の見込み。7日は、北日本を含め、さらに強まる見込み。

6日にかけて予想される波の高さは

西日本 6メートル

東日本 5メートル

の見込み。7日は、北日本を含め、さらに波が高まる見込み。

暴風や高波による交通障害に警戒。

【警戒事項】 つづき

<大雨>

- ・ 6日から7日にかけて、西日本から北日本では太平洋側を中心に南から暖かく湿った空気が流れこんでくるため、大気の状態が不安定。
- ・ 6日は、西日本太平洋側から雨が強まり、西日本から東日本の太平洋側で、非常に激しい雨を伴い、大雨となるところがある見込み。
- ・ 7日は北日本の太平洋側でも、大雨となるおそれ。
- ・ 落雷や竜巻などの激しい突風にも注意が必要。

<融雪・なだれ>

- ・ 気温が上がり、雨も降ることから、積雪の多い地方では雪解けが進む見込み。
- ・ 低地の浸水や河川の増水、土砂災害に警戒し、なだれにも注意



最新の気象情報は、気象庁HPをご覧ください。

<http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/>